

を具体化してくれる一方法にもなりえる。ここでは単に影絵サークルの活動経験をもとにした児童文化のいない手として患者も充分役立つことができる。という結果しか発表できないのではあるが、その行為以外の部分がDMP成人患者を希望ある生活にさせることも大であることを付け加えて報告にしたい。

## 12) 余暇の過ごし方

国立療養所下志津病院

在原 千代子 備前 都  
福田 由美子 大塚 加津子  
石井 照子

幼児にとって、遊びは、重要な役割を担っていることは、いうまでもなく、同様に、児童期・青年期における余暇活動も健全な心身の成長発達を促すための重要な要素であると思われます。その児童期・青年期にある、DMP症児(者)が、身体的ハンディそのものから狭められた生活空間の中でどのように、余暇活動しているかその現状を調査してみました。51年4月現在の患者状況は、入院患者122名、Duchenne型が程んどで、10歳～15歳の年齢層が多く、障害度別では、5度～7度が多数を占めています。なお、付け加えなければならないことは、当院では、車イス生活ではなく、いざり、四つ這いの生活をしていることです。

以上122名の患者を対象とし、彼らの余暇活動を、個人面接、日常観察によって、調査し、それらを、ビューラー、ハーロックの遊びの分類を参考にして、感覚的活動、運動的活動、模倣想像的活動、受容的活動、構成的活動、その他の活動に分類してみました。

感覚的活動とは、音を聞いたり、動く物を見て喜ぶといった活動で、当院においては、比較的知能の低い子が、オルゴールを聞いて楽しむ等がありました。

運動的活動は、他の活動に比べて、非常に少なく、テレビ・ラジオ等の受容的活動が最も多くみられました。また、この活動は年齢が増すと共に増えてきています。

構成活動とは、創作的なもので、低年齢層では、ブロック、プラモデル作りが多く、高年齢層では、トランプ、将棋、手芸等がありました。受容的活動に比べると少なく、年齢と共にその割合は、少なくなってきました。その他の活動には、学習等がみられました。

以上のことから、受容的活動の占める割合は、あまりにも大きく、それに反し、運動的、構成的活動の占める割合が小さいことが、特徴としてあげられると思われます。何故、このような特徴が現われるのか、同じ病院生活を送っている、他疾患児(者)の余暇活動の傾向と比較してみました。

他疾患には、腎炎・ネフローゼ症候群、喘息の患者に依頼し、低学年には、普段、どのような遊びをやっているか、5年生以上の患者には、期間を一週間として、一日の余暇時間をどのように過してい

るか、書いてもらうことにしました。腎・ネフローゼの低学年では、受容的、構成的活動が多く、続いて、模倣想像的活動がみられました。高学年では、受容的活動が、圧倒的に多くみられました。喘息病棟の低学年では、模倣想像的活動もみられましたが、腎・ネフローゼよりは少なく、運動的活動が多くみられました。高学年では、やはり受容的活動が多くみられましたが、運動的活動も略ほ同じ割合ででていました。筋ジス児(者)における、活動傾向と比較してみると、筋ジスの小学生高学年から中学生でも、まだ模倣想像的活動はみられていました。構成的活動は、他疾患では、年齢と共に増えていましたが、筋ジスの場合は、減っていく傾向がみられました。

同じ病院生活を送っているとはいえ、それぞれの疾患によって、生活形態は異なり、比較したものが、妥当であるかは、疑問のところですが、これらを参考にして、筋ジス児(者)のおかれている時間的条件、環境的条件を調査すると同時に、彼らが、充実した余暇時間を送るためには、どのような援助がより有効的であるか検討していきたいと思います。

### 13) 患者の職業の興味についての一考察

国立療養所八雲病院

桜田 裕 藤島 慎一  
大友 政明

当院は筋ジストロフィー症患児(者) 120名を収容しており、年齢層も高くなってきており、入院年数も10年を越える患者もおります。彼らの要求も種々高度複雑になってきており、それらを理解する意味からも患児(者)の職業興味について検討してみました。

実際に彼らが職業に対してどのような興味を持っているのか、どのような職業を希望しているのかを理解し、作業指導、趣味活動の拡大を計るため、または適切な施設への転所等、患者の要求に対応することを目的としております。

対象としてはD型以外の義務教育修了者で社会復帰の可能性があるとされる患者です。

方法としては、田研式の職業興味検査を使用しました。興味分野は大別して、戸外・機械・計算・科学・説得・美術・文芸・音楽・奉仕・書記以上10名の興味分野について本人の興味程度が発見できるよう設定されております。表1、それに基づいて各分野の得点のうち65以上のものは、積極的に好きな分野であり段階としては+2になり、同様に最低35以下は段階-2で好きでない分野であります。留意点としては偏差値が35以上でないということは、それに興味を持っていないということではなく、現在はそれ以下の興味を持っているということ

(偏差値)	[段階]
65以上	非常に興味がある +2
55~64	興味がある方 +1
45~54	普通 0
35~44	興味がない方 -1
34以下	非常に興味がない -2

↓ **検索用テキスト** OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓  
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

幼児にとって、遊びは、重要な役割を担っていることは、いうまでもなく、同様に、児童期・青年期における余暇活動も健全な心身の成長発達を促すための重要な要素であると思われます。その児童期・青年期にある、DMP 症児(者)が、身体的ハンディそのものから狭められた生活空間の中でどのように、余暇活動しているか その現状を調査してみました。